

自由連合

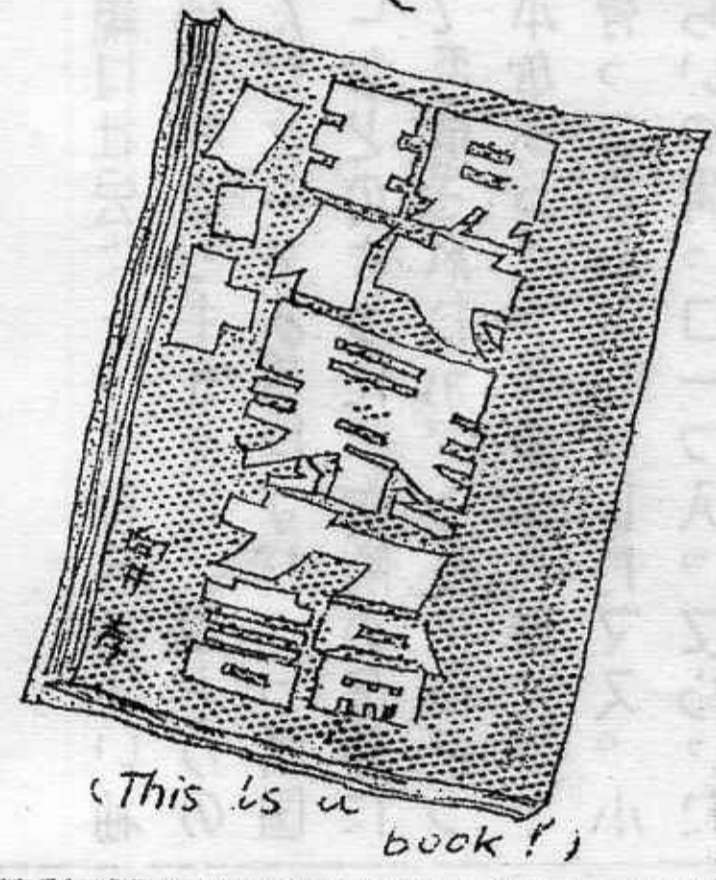
Libera Federacio
1970
4月20日
N-ro. 15
姫路市かめ山354
向井孝 0192-352368
自由連合社

定価 30円
振替口座
大阪 1264

① 2/4月と送金が
すくなくった。レカンパ
② 大阪にも白連社ア
ジトあり。未版の時
は... どうぞ...

疑似暴力の闘い

現代暴力論ノトヤ七章 抜書き



(This is a book!)

① 私たちがそれと悪いこんでいる生産労働は、労働力を商品として資本に売ることである。そのようにして得た賃金を仲介してしか、自己の必要なものをつることができないことにおいて、その生産労働はあきらかに疑似化Vしている。

② すなわち疑似非暴力体制Vのもとではそれに照応Vした疑似生産労働Vしかありえない。

③ このように全てを体制内に掬めとられた状況で、私たちの闘いは直接行動の回復・奪還の闘いとしてはじまる。それは、自己の疑似生産労働Vその疑似Vと、疑似化をまたらしている疑似状況Vに對しての闘いである。

④ 疑似との闘いVは、それ故に自己の内と外Vとの闘いであり、きわめて現代的な反戦Vの人的課題とも結びついている。

⑤ 生産労働の拒否Vは生産労働Vの放棄ではない。人民のみが生産を背負うものであり、権力者も依存せざるをえないという視点は、生産労働Vが人民のホームグラウンドであり、リングであることを明示する。

⑥ 生産をつきくずすことによつて、権力のあらゆる暴力機構をひき出す。⑦ 権力の暴力に對して、私たちのA対応Vは、まず二つの方向がある。⑧ 対抗暴力としての奪権闘争(向仲拒否)としての直接行動。

⑨ 前者は、カーに暴力の懸念を再び自らもたらされること。カーに人民の非暴力性Vとの対立という本質的問題への考慮を見のがしている。

⑩ 権力の暴力は、後者回においても、その防衛を必要とさせることによつて、私たちのA対応暴力Vをもひき出すことになる。そこには、尖鋭な暴力的攻防が現われざるをえない。

⑪ 一見暴力的なそれは、A直接行動回復—生産労働奪権Vにおいて本質的にA非暴力Vを指向しており暴力斗争と同質でない。A疑似非暴力体制の絶対状況Vへの崩壊過程

状況Vに對する人民側のA反暴力V—A疑似暴力Vとしてあらわれたものである。

⑫ 国家が行使する暴力と人民のA疑似暴力Vとは、一見同じに見える。一見きざらわしいこのことを区別する決定的な基準は、その行為が根本的にどのようにな生産労働と求心的にむすびついていくかである。

⑬ A暴力の非日常性Vはかならず人民の日常性Vによつて—(闘争が一次的に状況をきりひらいても—人民に見すてられる。このことはまたA疑似暴力闘争Vがその初発的な起爆力となつたとしても、それがそれだけであるかぎりA暴力闘争Vと同様に反人民化する危険をまぬがれない。たとえ、学生のパリストや学館占拠が長期化するにつれて内部的にも頹廢化し、外部とも断絶する—因はA日常性、生活性と對立するV闘争との矛盾のなかに存在している。

⑭ A疑似暴力は、限定的、条件的、状況的にあらわれるVといつことは、その時々において、多様なAゲリラV—の形態をもとるといふことを示唆している。そして、ゲリラが暴力闘争のみでないこともまたあきらかである。すなわち、疑似暴力としてのA—見暴力的対応Vはそれだけで終らない、さまざまA対応VとしてAきわめて創造的なV—新しい私たちの闘争をつくり出してゆく。

⑮ それは既成の闘争概念を破つたA新しい闘争概念創出Vとしてまずあらわれねばならない。それによつてこそ、その闘争がA対応の相対性Vを超えたA人民の絶対的からVとなるものである。

⑯ たとえば、A対応の相対性を超えるとは、わたしが設定した土俵へ敵をひきこむこと—その闘いの敵にしている—とでもあるだろう。

その視点をあきらかにすると、A疑似暴力Vは、暴力の強弱によつて勝敗を決するのではない。敵に設定したA暴力の土俵Vにひきこまれようとする闘争をきりかえして、私たちがプロデュースした闘争へと転化するものである。つまり、どちらが自己の土俵へ相手をおひきこむかにA闘いのあり方Vがあり、そのことにおいてA闘争の創造Vがあるのである。

⑰ 一般的状況として、私たちはしばしばA非暴力Vという語句にこだわるあまり、その直接行動といえは、A無抵抗の坐りこみVとか、A静かなデモVしか想定しえない。そのようなA既成の非暴力概念VはA既成の暴力概念Vと密着して、むしろ新しい闘争形態の発想を妨げている。

⑱ A坐りこみVが、歴史の模範でなく、闘争の時と場所と状況の中で別の視点を与えられ、ゲリラ性をもつたAちからVたりうるるとき、それは今尚、直接行動たりうるだろう。つまり、新しい創造形態の意味をもつときのみ、そうである。

⑲ このようにして考える時、A疑似暴力としての非暴力Vは、現在、権力のベースで叩かれられているA闘争の次元と質Vを根底から変えようとする契機となるものであり、A闘争概念の変革Vによつて、人民の日常性—生活性とも強くむすびながら、多様で、新しい闘争形態と様式を模索しつづけることができる。

(向仲孝) *Shirayama Junzo*
このA抜書きVは、前後の絡脈がなく説明不足である。改訂の上梓のものをみていただきたい。

⑳ 非暴力直接行動が、最近しばしばとりあげられる。しかしそれを語る者が、自己内部の暴力情念をどうしようもないで、自分自身をまかしている、という人がいまの一般状況で多いだろう。

㉑ すくなくとも、ぼくの議論はそれに応じられると願う。かまわずそれはぼく自身の問題だからだ。㉒ 二〇一五年までまもなくだが、上梓にあたって更に若干の進展がある。

㉓

女は 何ができるか

最近、反権力闘争の中で、女性が
どういう位置をしめるのだろうかとい
うことを、まるで迷路にはまりこ
んだように、いろいろと思ひめぐら
すハメに陥りました。

この向も、H嬢が「女性というの
はいろいろハンディがあつてねえ」と
残念そうに言っていました。が、と
いうのも彼女自身、H・Jがあいに
く生理日だったため、くやしさが尾
をひいていたかもしれせん。

武装蜂起を主張するM派のK嬢
も、最前線に武装闘争に参加したい
という強い意志に反して10・11月を
もっぱらウラ側の資金調達やレポと
いう役に服さざるをえませんでした。

10・11月闘争で、大量の女性南士
たちが逮捕されたとは、いわゆる火
炎ビン運びに役割が代表されたよう
に、「戦力」としては、どうしても



男性に劣ることは事実です。
「女子学生の活動家たち
は、ヘルメットと角材によ
つて、偽られる女の盛装を
ひきちぎった。しかしいか
に男装スタイルを誇示して
みても、現実には男の体力に
は及ばない。武装共闘隊に
象徴される能力に立ち向かうために
は、物理的にそれを圧倒するだけの
鋭利な凶器によつて補われねばなら
ないだろう。さもなければ精神力を
含めた女の自立の創出と開発、以
外にはない。」(丸山邦男)

企業の結婚停年制や、出産退職制
に抗議して、裁判闘争をやっている
婦人労働者の例を調べていたら、ほ
とんどがその夫たる人に「好きなど
けやたらいい」と全面支援されて
いるのがわかりました。反対する夫
をふりきつてもやってくる女性が、一
人ぐらいあつてもいいのじゃないか
と思つたのですが、残念ながら目には
いりませんでした。

もともと、この結婚、出産退職制
の不当さを裁判だけで争つてこつた
のは、どこか体制の土俵の中でのス
モウに見えて、私はあまり革新的だ
とも思わないのですが、11月闘争で
妊娠中の女性が逮捕され、名古屋で
胎児を死亡させられた女性もあつた
というニュースは、どうした婦人の
叫びのパターンに強烈なパンチをあ
びせます。

常軌的に言えば、「妊娠中の婦人の
とるにあるまじき行動」を彼女たち
がとつたといふこと、そのことの意
味というよりも妊娠中の女性をし
ばる「すべては俺なかの子どものだ
めに」といふ八常軌への挑戦に私
はうまくことばにふまけない何かを
きつつけられています。

そしてまた、彼女たちの行動は、
反戦闘争の中にある女性にとつては
結婚、妊娠、出産、育児といった混
沌とした部分を身外に含むももろ
のことを、もう一度統括的に考え直
すことを提起しているのではないか
とも思ふのです。(高橋桐子)

(北大阪通信より抄出)

女の論議

母親運動

「母」という呼び名は、政治的に
はしばしば保守的に使われてきた。
体制の側も、反体制の側も、ひと
りの母親に、やすやすと個体を超越
した共同性の体現物を作り出し、そ
こに「聖なる像」を代置する。母親
は、「母」というさわりのよい呼び
名のために、たやすく個体のエゴイ
ズムをのりこえ、ひとりの子供にた
いする占有感覚をのりこえ、「母親
」という共通性を、社会の美化に役
立てるのだといわぬばかりである。

戦事中、わたくしは「軍国の母」
「靖国の母」と書きたてる新肉に、
体制の側が押しつける共有感覚の固
々しさを見た。「靖国の母」といふ
抽象の体現物を強いられて、どのよ
うな論理的な反撥もできぬまま、ひ
とひとりひとりの母親は沈黙しつづけ、
とまどいながらその呼び名に従うか
のように過してきた。「靖国の母」
から「母」をはぎとることかできる
ほど、それまでのすべての女の運動
は「母親性」を検討してはいなか
た。

母親は社会にとって都合のよい抽
象の体現物よりもまえて、ひとりの
「生んだ女」であるはずだ。「靖国
の母」がどのような、実際の母親に
よつて否定されたか、ここにひとつ
の見本がある。「遺骨来た時オレ、
その骨、コさかぶりついたマス。小
指ぐらゐの骨、コ一つ入つてらつた
どもーうが(お前)本当に千三だつ
てかー、オレその骨、コかぶり
ついてなめてみます。ナニ、千三
のかまり(香り)も何もしなかつた

毛。千三だか誰だかわからぬえノ
ス。(岩手の女 菊池敬一「女性
残酷物語」)

ここにみる「生んだ子供」との
連続感、直接的なものであり、
実感的なものである。おのれの子
供にたいして、個体としてさらり
と分離できない実感が、戦争など
によつて暴力的に切断されたとき
言葉による抽象などは母親にとつ
て無意味なものに思える。当時の
日本政府は、「家」を媒介にする
かぎり、女はつねに保守的であり
「母」はその保守性のシンボルで
ある、とした支配の論理があつた。
この保守的な「母」を「靖国の母
」という祭儀のイメージと結びつ
けることにより、「家」を原基形
態とした、支配の様式は安泰であ
る。したがつて、女たちの実感を
「靖国の母」へ自己疎外させると
いうキャンペーンは繰りかえされ
つづけられた。

国家のなかに疎外された「母親
性」の検討がなのまま、戦後の
「母親運動」は出発した。

もともと母親大会は、一九五四
年十一月、ベルリンでおこなわれ
た、国際民主婦人連合執行局会議
に日本代表が報告した「死の灰」
の恐ろしさから、「平和を守る」
世界母親大会のアピール(ジュネ
ーブ、一九五五年二月)に発展し
た。日本母親大会はこれを受けて
準備されたもので、「平和運動へ
の世界的共通性」を柱としていた。

「母親性」が世界史の中で「平
和像」として、共通の理念となつて
おり、「母」という名を切札にす
るかぎり、ひとひとにわかりやす
い価値感を示しうると考えられて
きた。女の運動が母親の運動であ
るかぎり、女権運動のように水を
かけられたり、石を投げられたり
する恐れもなく、男たちの保守性
を先取りできる性質さえも、とい
える。

「世界史のなかでの市民権」を
たやすく得られる運動は、そのた
やすさのために拡散する。日本母
親大会の指導部も、この拡散を乗
り超えることかできなかった。「
平和を守る」といふ世界的共通性
と「涙の大会」といわれた女たち
の実感とを連結してゆくものを欠
落させて、大会は回数を重ねるご
とに、実感は整理され、切りすて
られて、紋きり型の表現の前に、

「地方」から参加する女たちをまと

一九五九年の大会には、すでに「婦人大会」と名称を変えたほうか

「P.2下段より読。く女の論理」の婦人問題を網羅するほど分

「自分のことばで発言しなさい」という忠告が、熱心にノートをとっ

「共同性」に自己を疎外することなど、生活者の言語領域にはありやう

「共同性」に自己を疎外することなど、生活者の言語領域にはありやう

「共同性」に自己を疎外することなど、生活者の言語領域にはありやう

攻を受ける。一九五九年八月、自

「無名通信」より抄出）

「河野信子」

「編集手帳から」

「編集手帳から」

組織としての自由連合は、かつて完全

「自由連合」は、そのように入会者から

「自由連合」は、そのように入会者から

「自由連合」は、そのように入会者から

「自由連合」は、そのように入会者から

「自由連合」は、そのように入会者から

俳句

秋のこぼれ

宿場町のはずれで 食事している男 土向の炉に大きな鍋をかき 杓子でお椀によそい にぎり箸で口に入れるー無 精ひげの男 女はいるのか しめのこざれた戸口から むこうに見える街道 秋の地面は 白い

美女がうばわれ 侍が殺された田舎町にー んぬかえった静かさ 高気圧がはりだし 上空何万メートル北まで 空けすみまってる？ 重たい屋根をかぶった家 わらじづくりは 足の指をつかい 手を台掌のようにすりあわせて ワラをなごー それからどうした？ べつに

それだけのこと (草階俊雄) リベルテ6号よりー歴史とほく 自身への告発V、△心情日記抄 V、△箱根山南拓地V、△指標を 求めてV、△幸福な死刑囚ムルソ ーV外 発行所ー秋田市将軍野 南一丁目10番8号 リベルテ社

黒党への招待

昨年、大阪におけるエスエル左派 (パンと自由)の内部にあった情急を私たちは「黒党」の原点としてい

る。 「パンと自由」における私たちの宣言は何であつたか。それは言うまでもなく△絶対自由Vを求める上向性ベクトルであった。そこで私たちは△怨念Vの共同体を所有したのである。 ところで私たちは「言語は果たして思想を表現できるか」という問いかけの前でまどろんでいる。この問いへのアプローチなしには、変革への志向は生まれない。言語空間に身をとおもねる自己がその中で逆行した時、斗いがおこるのだ。△絶対自由Vとは、その自己の言語空間との向の關係においてしか成立しえないのである。私たちが生活の重みを言語にたくす時、その言葉はどれだけの

生活の重みを表わせるのか。あるいはそれに耐えざるだろうか。 疎外。存在の疎外は思想の疎外を生み出し、それは言語という理性的表象物を登場させる。私たちはこれをふち破らねばならない。存在を回復しなければならぬのだ。 「黒党」の斗争は、まさにこの言語空間への逆行からスタートされるのである。 (千坂恭二)

アメリカだより

このシアトルにはアナキストの定期刊行物はない。イギリスのアナキキ誌やフリードム紙がある程度書及している。アナキスト思想の書籍はいつでも小教ながら出版されている。今多くの青年たちがアナキズムの方に傾むいている。けれども彼等にとっては何となくアナキストの伝統に接する方法はない。 アメリカ合衆国においては、アナキズムはほとんど完全に壊滅させられた。二つの世界大戦の間においては革命的傾向をもったアメリカ人は、共産党、社会主義労働党(デレオニスト)または社会主義労働党に(トロツキスト)はいった。アナルコ・サンジカリストのIWWは、その事務所や発行部数の少ない機関紙と同様、ほとんど全くオーストラリアの老令残存者の中に余命を保っていた。

この点では他の部分の人たちよりも、北西部のわれわれは幸運だった。ここは以前IWWの活動が特に木材産業、鉱業において最も勇敢だった所で、その伝統の幾分かはこの地方のマルクス主義者の仲間に残っている。 ニューヨークにはリバータリアン・リーグがあった。しかし西岸のわれわれの所には、その影響がほとんど届かない。 私か夫とともにマンズレー・レヴィウ誌に発表したものは一九六四年における情勢であつた。

「アナキキ」という言葉でさえアメリカ人の公話や文書には侮蔑的以外にはほとんど全く使用されなかつた。長い向全体の主題の完全抹殺がおこなわれたのだ。(ルイス・クロリー) リベルテール4号よりー「アナキキ」 アズム運動外史V、△ベトナム人留

学生を支持し、その人権の侵害に反対する声明V、△むそが水日記 V、△書きもらされたアナキキズ △労働組合運動史V、△石川さん と私V、△平連と水平思考V外 発行所ー東京都武蔵野市緑町2丁目3-1-101 リベルテールの会 定価50円

中学生連帯 附 論 争 総括

自己批判すべき点は、次の4つである。 1. 思想性なき斗争であつたこと 2. 中学生という立場に甘えた斗争であつたこと 3. マスコミにおどらされてしまったこと 4. 斗争における日常性との接点 がなく、自己満足の斗争であつたこと

我々は「安保粉砕！斗争勝利！」と叫んで来たが、何のために安保を粉砕するのか、何のための斗争なのか、という問いに答えることができなかった。(現在でも、できるとは言えない) そのことの原因としては、中学生というこへの甘えがあり、「中学生だからむずかしいことわかりません」的で自己の変革などなされるまちなかだった。又、我々は中学生であるということをかたりもてはやされた。そしてその「もてはやされる」ことに甘えきって、デモのおもしろさのためにデモをするデモ屋になつてしまつた。

我々はブルジョワ新内を全国的コミニケーションの場として利用するつもりでいたが、結果的にはマスコミに我々がおどらされるような形になつてしまつた。我々の出した「かわいくやろう」という方針も、これを否定するわけではないが、これを方針として打出した時点において、「ゲバるとマスコミにたたかれるからかわいく……」というようなマスコミのなれあいの姿勢があつたことは確かである。我々は学内ではほとんど斗争をしていなかった。今学年末をひかえて我々は学内における建國記念日斗争、卒業式斗争に全力を注ぎたい。しかし、卒業式斗争などが単なる要求項目斗争で終つてしまわないためにも、我々は常に中学生とは何か義務教育とは何かを考へていかねばならない。(中学生V全国闘争中学生連帯機関誌NO. 浦和市領家崎小林方)

肥大と解体

イワクニ基地

昨年10月8日ベトナム・ダナン基地唯一航空師団が移駐して、兵員三六八〇、在日最大の規模をもちた。イワクニVはその後増強を続け、現在五三八〇をこえた。

指令官も佐官からジョンソン准将にかわり、恒久的施設が建設されて岩窟を内地における沖繩にするもくろみは着々と進み出した。

だが、基地の急激な巨大化と共にその内部からの侵蝕、解体が始まった。その矛は、基地内の人種差別の向頭だ。

黒人兵はダンキとよばれる特有の衣服をまとつことを許されない。図書室には毛沢東の軍事戦略の本まであるのに、クリバヤリロイ・ジョーンズの本はない。白人兵は彼等をニカーとよび侮蔑しつづけだ。

伝言板

1月5日夜、ついにサウスサイドの隊員クラブ付近で一人の兵士が病院にかつぎこまれ、数十名の兵士が逮捕されるという爆発的衝突が起きた。それ以来黒人兵と白人兵の分離、夜間パトロールの強化、当事者の厳罰処分の威かしにもかわからず小衝突がやまない。

そのとたん、2月5日の集会で兵士たちのとった写真やテープの行方かわからず、大さわぎで将校たちが捜しまわる始末である。

オニに、黒人兵、白人兵からなる反戦兵士グループの出現と活動の向頭がある。

グループは1月から地下秘密新聞「ヘンバー・ファイヴ」かわらぬ忠誠という海兵隊チームからとった名を発行しだした。

いま基地内ではこのグループメンバーの捜索で狂奔している。

兵士の郵便物は南封され、本国から送られてきた「ハポンドV」ハアライVなどのGI反戦紙が2月だけまで

250部以上も押収された。

これに呼応して、岩国や平連や市民グループは「ハウイー・ゴット・ザ・ブラスV」ヘンバー・ファイヴ「ハアライV」等を外出兵士に手渡し、また反戦放送も3月21日以来始められた。

4月5日、八治安訓練反対V、八人種差別反対V、八反戦兵士との連帯Vをスローガンとする「ベトナム反戦米基地撤去岩国集会」はGIと日本人民の連帯をます、力強い一歩となった。

ミサワ基地

一果兵士より

わがASU(兵士組合)支部は未だ萌芽期にあるけれど(五十人内外)、われわれは大騒ぎを引きおこして、高級将校のブタどもをもつと怒らせ、彼らのやり口を逆手にとつてやつらのけつをひねりあげてやる。三沢のわれわれは、毎月さらに200人を超え、ついにこの兵籍にあるすべての者をわれわれのスローガンのもとに団結させる計画である。最終的にわれわれが成功した際には、首が幾つか転がるだろう。フォート・デイクスの38人を持せよ、そして信意を守れ、ベイビィ！(脱走兵通信9号より抄出)

誰が教区の破壊者か

反万博が ひきおこしたその

万博問題が教会にひきおこしたものは、それは一方においては反万博の斗争を担う教区に対する、全く報復的で陰湿きわまりない裏面工作、しめつけである。あくどい手段によつて牧師の生活の道をたたり、教会を去ることを余儀なくされたりしながら、そこで必死に闘っている教区がある。

大橋弘(稲田教会の場合)。彼は昨年の教区臨時総会の「万博キリスト教団に根本的に反対する決議案」の提案者であった。稲田教会は天満教会の分れて、その天満教会には、万博推進者の巣窟であるクリスチャンセンターの理事長・桃谷勘三郎がいる。

稲田教会の役員で桃谷と親しいという婦人があった。彼女は町の有力者であった。教会に来ていた地域

の人は、S一家と対立しては生活ができない。桃谷らはこの点に目をつけて、S家を核にした反大橋勢力を組織させ、牧師排斥運動を操つた。大橋一家に村八分の状態においこもうとした。この動きに反対する青年が立上つた時、彼らは献金をストツプして礼拝をボイコットし、経済的にも大橋一家を苦境に陥れようとした。こういふ仕打ちは、小さな町で毎日相手と顔を合さねばならない牧師の家族や子供にとつて、生活を破壊する重圧にほかならない。

大橋はやむなく転居し、肉体労働に従事しながら、少数の青年と共に教会にとどまりつづけている。泉十次(長居伝道所)の場合もひどい。この伝道所は市川恭二の大阪教会から分れたものであるが市川は万博の推進者、実行委員である。泉が万博反対運動をはじめると、市川は自分のイキのかわつた伝道所の役員を動かして、泉牧師排斥運動をおこし、長居伝道所は「万博斗争や教会変革運動から手をひくか長居伝道所をやめるか」の要求をつきつけた。その向に泉の大阪教会へのよひだし、伝道所に対する干渉、家族に対するイヤガラセで、ついにそこでは生活できない状況におちこんでしまった。

泉は1月11日、伝道所を解任され、いまは大阪北郊に転居して労働に従事している。

また同じ万博推進の船本坂昇は大和郡山の加山宏路に対して「君も少しおとなしくしていないと、天満の石田君の例もあるからな」と忠告したという。

現実には教会を破壊しているのは一体誰なのか!

八自牧連は発言するV創刊号より抄出。――牧師解体的牧師共仰。神戸、主恩教会問題。啓明女子学院の暗黒体制。正迫される「やぐら」誌ほか発行！自立的牧師連合

現代暴力論ノト

非暴力直接行動とは何か

B5 約90~100頁 32開

限定300部 予約定価 (送料65円) 250円

刊行予定 - 4月末~5月上旬

(刊行定価 自庫から定価) 1000円

中村君と フェザーストン君

もう十年も前の話になるが、オーイ、中村君、というはやりうたがあった。悲しい心の状態にいる時の私のくせで、母も、下らない、ダジャレめいたことばかりが、うかんできます。

きみのお母さんは、きみたちの胸いが雄々しかったことを堅く信じて保留するところなく賞めた上で、だげど死んでしまっただけはしかたない、ということは何度も言われました。カツミはみんなに逃げるといって逃がしてから、ひとり踏みとどまって向かっただけで、死んでしまっただけは古田体制も佐藤体制も倒すまで向うことはできないのですからどうぞ、みなさん、そういう時は長い陣いのために逃げてください、生きのびてください、と。

至共同葬におけるきみのお父さんのご挨拶もバツグンでした。ピラをまいただけで殺される、オッソロしい大学だ、わたしらのよつな貧乏人が親戚から借金してまで寄付を先取りされながら、カツミをさういつ日本大学に入れた、なんというバカなおやじだったんだらうと。

あるセクトの弔辞が、中村君を何度も糟谷君と言いついて、満場の失笑を買っておりました。固有の顔がみずからの心の中に浮び上ってこない哀悼は、ソラゾラしいかぎりだ。中村君の固有な顔が浮んでこないというところは、糟谷君の固有な顔も浮んでこないことでもあります。

私が最後に中村君に会ったのは、昨年の六・一五日比谷野外音楽堂の楽屋においてです。山本義隆君が「変装」中のその楽屋で、ニコニコ人なつこく近寄ってきた中村君は、まるで私に対する固定観念でもあるかのよつに、「近いうちにぜひ講演会をお願いしたい」と思いましたと私に語りかけました。すでに執るべきパリケードはなく、キタならしいアノラツク姿の、目だけかあいかわらず清潔に人なつこいアイツ、でした。

ベ平連を代表して福富節夫氏のきわめて戦術的な追悼の辞の最後のところまで、S.N.C.C.のラルフ・フェザーストンが二トログリセリンによって自動車ごと爆殺されたというホット・ニュースを向か

された私は、逆上して思わず、「ナシセンソール」と絶叫してしまつた。フェザーストン君はS.N.C.C.を代表して日本にやってきて、私も一緒に八ベトナム反戦本土縦断講演旅行Vというのをやったことがあります。

その水はま、たくもってヤジキタ道中であり、フェザーストン君は、バーバラ・レイノルズ夫人が世話してくれ、広島島の宿舎で、五工内プロの浮んでいるフタをとって入ってしまつたことがあります。あの黒人特有の鼻にかか、た甲高い声で、時ならぬ浴室からの絶叫！ 冷静そのものの政治学者ジンがあらわてことんゆきまじらした、この不幸ばかりは私たちも腹をかかえて笑われないわけにはゆきませんでした。事情を悟つたフェザーストン君自身が、ゲラゲラ一緒に笑つて笑っているじゃありませんか。

ユカイなヤツをした。名前にしてからが、フェザーストンなどと、義は泰山よりも重く、命は鴻毛よりも軽し、を一緒に圧縮したような、形容矛盾的なユカイな名前でした。ドナルドダック式のあの黒人特有のアヒル足、バタ足が得意でした。一度、エレベーターから一人だけまぢかえ下りてしまつて、あわてて私がインチキ英語で「ラルフ！ ゴーバック・スーン」と叫んだときなどは、行こうか、もどろか、文字どうり足をバタバタさせたものです。もちろん、「カム・バック」といわなければいけなかつたのです。

「本土縦断」と書きましたが、ジンとフェザーストンは沖繩まで足をのびた最初のアメリカ人でした。日本人であるがゆえに私が沖繩までついてゆけず、アメリカ人であるがゆえに彼等はフリーパスで沖繩にひ立てる、という奇妙な状況の中で、私はフェザーストン君と福岡で別れを告げました。沖繩に立った時、S.N.C.C.がやってくるといふので記者たちが空港に押しかけているのを見て、「だれか人気スターでも乗ってるのかい？」とたずねて、あたりをキョロキョロ見まわした。という逸話を私は後で聞かされた。

思い出しました。やはり年はちがうが、六・一五の時です。鶴見俊輔、私、ジン、フェザーストンは、種

二の死

美智子の遺影に献花するために、国公門前を訪れました。フェザーストン君は、六〇年安保闘争の、難者の意味について、よく感得しておりました。プロレタリア国際主義とは、け、きよく、このような、難者の連環であるのかもしれません。血には血を。 (いいだもも) (統一35号より抄出)



あゝ 黒人の死

R・フェザーストン。彼が北海道から南は沖繩まで、「反戦講演」をしてまわったのは、たしか一九六七年の夏だったと思う。彼は黒人、一緒にやってきたH・ジンは白人でボストン大学の教授だった。当時は、ジンの鋭利な講演に目を奪われて、フェザーストンは、ただ、遠りよがちなやさしい黒人という印象だけしか、ぼくには残らなかった。

その彼が、この三月廿日、アメリカ、メリーランド州で、自動車に仕掛けられた二トログリセリンで吹き飛ばされて死んだ、という知らせを受けてから、不思議なことに、彼の印象は、日々、ぼくの中で鮮明なものとなってくる。彼が、ぼくの親しい女の子に、さりげなくウインクして、手をふってみせた任事までが、生々よみかえってくる。

黒人の革命家が「俺たちには明日はない」というとき、それは歌の文句としてあるのではなく、二トログリセリンによる完璧な死のなかにある。それは、いかなるアイマイ性をも許容しない生である。明日のことを思いわずらうな、と明日なきものに云うことはできない。それは、既に死んでいる明日にかかずらあうものに対してだけ意味をもつ言葉である。

社告

自連記事から、読者がグループ・個人、発行所住所など向合せがあります。それは当該箇所に関連するから返信してもらうことになつていきます。ヒミツを守る関係から、直接おしらせはいたしません。断り承下さい。

赤軍派日航機 のとり事件の衝撃

(井田不二夫)

① 問題にするべきことは何なのか？

「マスコミの世のつねとして、既に旧内に居るか、確かに今回の赤軍派日航機乗っ取り事件は、異常な逆の反響を呼んだし、その後「真相」なるものが報道されるに及んで、マスコミも四苦八苦し、その後の評論に至ってや、と、割台まともな評論(例、アサヒジャーナル4・19)もだされた。しかし僕などがそこを關心を持たざるをえなかつたものは、むしろ市民社会の暗黙な文化体系「秩序イデオロギー」としての「人道主義」そのものに対する慄然たる恐怖だった。

(感想)

② 僕個人的な云えば、当時、去い知れぬ思いで、気ままな旅行に出ている。最初に、そのニュースを旅行先の一杯飲みやで肉いた時は、「やっただぜカトチャン」と快哉を叫んだものだが、マスコミに云わすれば当時どうも一徳日本国民皆なが、憤り不安がり、「どうしようもない怒り」と憤りに包まれた。そうだと、それどころか九州などをうろろしているところ、「当事者ばかりでなく、親をも殺せ」という秩序派イデオロギーに囲まれて、「ドキッとする。なせかと云うに赤軍派学生の考え方や行動には「人命を無視した手段に訴える反人道主義」的立場であつたそうだからだ。

③ しかし、その向政府「権力へゲモノ」のもとに使われ、「人道主義」という言葉が、極めて無媒介的にこのニュースを肉いた民衆の向にまきおこした不安を表現する言葉としてスライドして、た事に対してこそ、慄然たる憤りみたいなものを覚えるし、又、この向の過程で待ちうけていた「人道主義」なるオトシアナにはまりこまない事か初步的な人民武装の萌芽的段階さえも解除された民衆の反権力的意図の所在を示すことではないのか？

マスコミの操作

④ 例えばそれら加、「暴力学生によって、乗客の人命が危険にさらされる」という報道で表現されるとき、僕から云えば「何をアホナ

！」という苦笑にならざるをえないが、当の乗客自身の体験談が伝わるに依って、当初のマスコミ「権力」の一体化した姿勢「即ち可視的にドスで脅かされる状況」を、市民犯罪的な刃傷沙汰のおこる文脈一般に、政治犯罪をあてはめようとする姿勢、彼ら過激派学生とよばれる部分を市民社会の疫病神としたてあげようとする昨年末の状況を見ないわけにはいかない。

秩序イデオロギーとしての「人道主義」

⑤ この向の隠微めいた国策は、既に他誌で報道された如くのこと。しかし僕たちには情報入手手段がないという事実が、僕達のおかれた現在の状況を物語っている。その向、マスコミに表現された限りでの民衆の「人道主義」的な怒りの方が恐ろしい。

人道主義の落としあな

⑥ 人々が怒るのよう怒る限り、何故に今回焦点化された近くて遠い分断国家朝鮮の残酷史を形成した当の日本近代史の歪み「日本帝国主義の歩み」屈辱感を感じなかつたか？ 李珍宇、金徳老、金東希、その他教知れぬ地に埋れた在日朝鮮人↓

↓するに、市民社会の中で、自ら「人道主義」者であることに居心地の良さを感じている人々は、このような事件が起れば善良な「市民」として憤る事が「良心の存在証明」であるかのように錯覚しているのではないか？ もっと皮肉に言えば、その後政府の処置のまずさをせめたりすることばかり批判的な良心をもつ「人道主義」者と思われているのではないか？ だとするならば、それは内

患をもたない死語でありながらも政府、ゲモノ「下」で使われ、公認され許された「人道主義」という言葉に人々がのっかかり、自らを関係づけしなくしてか、たからだ。ここで僕は「人道主義」という言葉そのもの「その意味と、この言葉なら安心し

て使えるという呪縛された市民社会の意識構造に、改めて疑惑の眼をむけずにはおれない。

⑧ ある言葉が一定の意味をそなえ、コミュニケーションをなして使用される仕方は、その言葉を使う社会関係のあり様によって決定される。現代日本の状況というものが、決して「人道主義」的でなく、直後、大阪のガス爆発をとりだすまでもなく、ます「市民」人間的な状況をつくりだしているか、という事を語ることに今の目的でない。問題は、「人道主義」という言葉が登せられるや否や、僕のように「やっただぜ！」なんて言つ者を許すな！という台言葉に変わるといふ事だし、自分が「人道主義」と叫べば一切が免罪されたかの様に思ふ呪術的な機能をもちえたということだ。「人道主義」に反するものは如何なるものも許すな！、これが現代のタブーであり、このタブーに市民社会の秩序イデオロギーが表現されている。一つの言葉が、その言葉を流通させる具体的関係性ゆき無批判的に価値あるものとして使われる時、それはたやすく、秩序イデオロギーを表現するものにスライドしていくのだ。

呪術的言葉を 死滅させよ

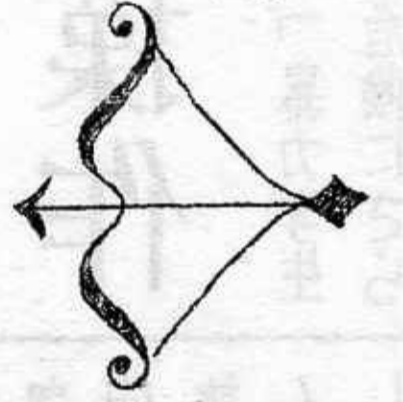
⑨ この手品の種は、既に「弘や鈴木道彦らか指摘してらうし」いか、僕はきま、つてあの自左翼の人々との抗争の中で暴露され、死にたえていった言葉を思い出す。ベトナム反戦運動の進展の中で暴露されて、た日本の虚像としての「平和」、沖縄・学園その他増大する社会矛盾を年末選挙に見事に集約させた結語「民主主義」、権力への叛乱を志向した大衆の武装自行問題を、市民犯罪的暴力一般に同一視させたばかりか逆手にとり、「自警団」までくりだしてきたあの立派な「秩序」、かの「大学の自治」、身分秩序を保障する「学向」、日共の絶叫する「統一と団結」、官僚体制をおおいかくす「連帯」、それを言えは一切が許される「革命」——うんざりする程、僕達はイデオロギー化したこれらの美しい言葉にとり囲まれているし、又(P.8)に続く

ヨーロッパ アナキズム

武者修業の記

(10)

尾関 弘



一九六八年十月×日、二度目のカラ訪問の後に、ぼくは再びフロレンスにやってきた。フロレンスについてのは夜の8時になっていた。さっそく電話で親友のパウロを呼び出すと、ちやうどどうもい具合に、今夜、フロレンスのアナキスト・クルース・カミーロ・ベルネリの会合の集会があり、いまからそこに行くところだという。もちろんぼくも同行することとすぐに決め、荷物を解く暇もなく、パウロの車でもうすぐ至真屋のニコラの下宿に行つた。下宿屋の狭い部屋の赤くなりかかった螢光灯の下では、約20人ばかりの人がイスに座ったり、机に腰かけたり、床にしゃがみ込んだりして熱心に談話をしていた。が、ぼくの突然の登場にその轟々としていた話し声がヒタリと止み、全員視線が意外な珍入者であるぼくにいつせいに注がれ、ろうばいした。パウロが早口にぼくのことを皆に紹介すると、皆は納得したように、ぼくをながげ無視してすぐに先程の談話の続きを始めた。次はぼくの方が皆の表情を伺う番である。明らかに学生だと判る数人、60才は越しているだろうと思われおじいさん、腕を組んでじっと聞いている女性、半パンツにメリウリ姿のおじいさん、しゃべりながらチヨビ髪をいじつている男等々、じつに様々な人々がそこに集まっていた。話されていくイタリヤ語はほとんどぼくには判らなかつた。だから、ただ話されていくことを推測したり、話し手は何者なのだろうかなどと考えたりしていた。

まではイギリスで仕事をしていたのか。そしていま両親の故郷のイタリヤに住んでいり。これでもわかるとうに、スペイン語、イタリヤ語、フランス語、ポルトガル語、英語、をどれが母口語というでもなく自由にしゃべれる、まるで言葉の手パートのような男である。その彼の傲慢語の一つに、アルゼンチンでの高校時代、于エ・ケバラと同級生で、同じバスケット部をやっていた仲間同志であつたというのがある。彼の話によると、ケバラは、運動も勉強もできる優等生で、特別政治に関心をもちつこともない平凡な男だつたそう。性格は緻細で緻密な方で、テレン・アマリウ革命の烈士于エ・ケバラの英雄的な目的から、思いもよらないそう。

Ω Ω Ω

さて、ぼくはこのジョン・ピエールの通訳で、ごく簡潔的に日本の反体制運動の現状や安保条約のこと、沖縄のことなどを話した。ぼくの話の全てがイタリヤ人にとって初耳のことであり、興味をもつ熱心に聞いていた。しかし、いかにぼくが安條や沖縄のことを語つてみても、日本は余りにも彼らの意図から遠かつた。日本は見知らぬ不思議な口でしかなかつた。その別の星から来たような人間が、彼らと同じように、アナキズムを語り、マラテスタやヘルネリの思想を云々する、それはまさに彼らにとつて驚異であつたらしい。それは一氣にぼく達の距離を縮め、近親感のようなものを醸えつくと共に、自分達の思想の普遍性を再確認させるに充分であつた。

日本のアナキズム運動の歴史や思想性を探ねられるうちに、気が付いたことがある。それは、われわれが、ヨーロッパ各口のアナキズム史にみられるような、個別のアナキズム史、あるいは充分オリシナルなアナキズム思想をもたなかつたことである。たとえば、幸徳や大杉はたしかに傑出した世界的なアナキストだが、彼らにしてはなほクロポトキンやバクーニンから出発していること、の弱さを感じずにはいられない。すなわち日本の伝統的な思想や凡土のなれから生起するアナキズム思想が皆無なのである。ほとんどが西洋風の近代合理主義の焼き直しにすぎなかつた。それが、いまだかつてアナキズムが日本の社会に、日本人の心の中に受け入れられることがなかつた遠く

い理由のよう思われる。

Ω Ω Ω

最近、ヨーロッパでは大変な東洋ブームである。たとえば大沢という禅宗坊主がフランスで「インケ・マンタ(陰と陽)」という月刊雑誌を出版しているが、これがまた大変な評判で、最近では、イギリスとイタリヤでも同じ雑誌がそれそれの口の言葉で出版されている。商品化され、歪化された「禅」ではあるけれども、西洋社会の中に東洋のものが、異質性と神秘性をもつて関心をもちだされてきている。

「仏教はその起源からしてもひじょうにアナキズム的なものではないうらうか。だから、仏教の日本では、きつとユニークなアナキズム思想があるにちがいない」とか「タオイズム(老子の思想)とアナキズムでは哲學的に同じではないか。東洋社会に土着した原泉的なアナキズムかそこにあるのではないか」というような質問がよって来つた。少くともぼく達日本人以上に東洋のブーム、日本独自のアナキズムを探い出し、抱いていけるのか察せられる。ぼくの知る限り、このような作業は、超国家主義者の権藤成卿の「自治民政理」や「自治民権」にわずかにみられるだけであるとすれば、ぼく達の怠慢は明らかである。ぼく達は、今一度、日本の凡土に根ざした、日本人の情念から出て、日本人の言葉によるアナキズムを考えてみなければならぬ。外国で知られる日本である。(つづく)

▼北二神 権藤成卿、自治民権の思想の発展の歴史
(つづく)

「僕達自身もこれらの言葉を否定はできても突破し死語に迄は追いやれないか」

⑩ そうつた意味を、今回の事件は、はからずも叔カヒマスミの一体化した情報操作II世論操作の中で一つの言葉の使用が秩序イテオロキヤに転生する過程をみせつけた。僕達叔カヒに怨念をもつ民衆は、叔カヒに収奪された言葉に對して、新しい関係全体を予感させる新しい言葉をあみださねばならぬ。その武器なくしては、市民社会の意図和造の壁をいつたつてもつきくすせないだろう。